

大学生らの大麻汚染の広がりが表面化する陰で、「眠剤」と呼ばれる睡眠薬など向精神薬の乱用や依存が広がっている。不眠やうつ病の治療が入り口になり、麻薬のように遊び感覚で始める人も。大量に服用し、意識のない間に奇妙な行動をして入院する患者が増加。大阪では睡眠薬約二十万錠が行方不明になる事件があり、「闇の流通」もあるとみられている。(岩岡千景)

## 「眠剤」広がる乱用

薬物依存症の診療をする東京都内の病院。院内の一室では、来院者がテレビを見たり、話したりしてくつろいでいた。その一人、数年前まで電気設備関連会社に勤めていた三十代の男性は、会社員時代、睡眠薬をたびたび飲み、依存症に陥った体験を語った。「緊張をほぐして普通になるために、眠剤を手放せなかった」。

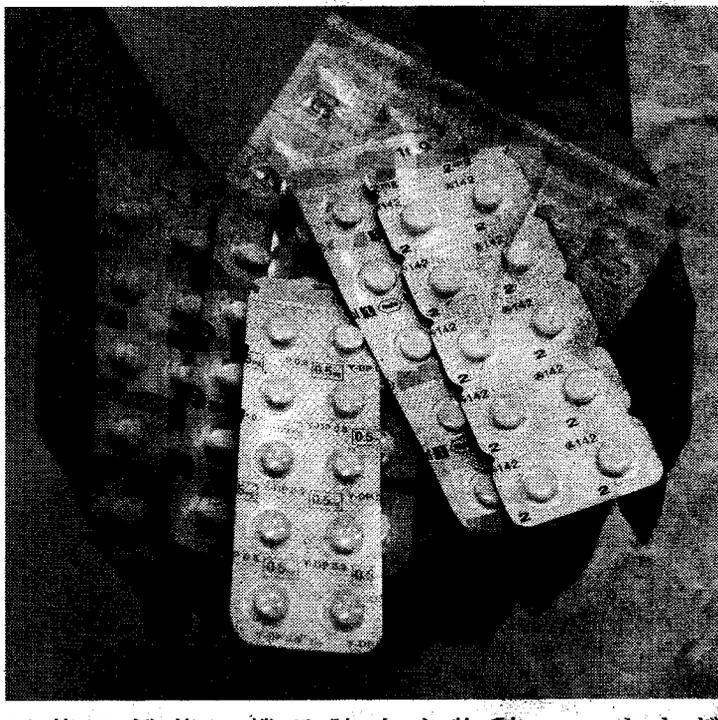
通常、睡眠導入剤などの睡眠薬は眠気を促すために就寝前に飲む。だが男性は、昼夜を問わず飲んでた。「朝起きて飲むと肩の荷が下り、一日

# 増え依存症

口に入れた」  
知人に誘われ、飲み始めて癖になり、町じゅうの病院を回って処方してもらっていた。「将来や日々の仕事のことを考えると不安に押しつぶされそうで、薬がないと耐えられなかった」。夜には、自宅でビールと一緒に飲むことも。「へ口へ口になってすべてを忘れることができた。その世界に行く方が、緊張して

中08/2/04朝

## 「不安感」医師の指示守れず



不眠症やうつ病治療に使われる処方薬の数々

「依存症」に陥ることが取ったり、酒類と一緒に飲んで死亡した例もある。

依存症になると、薬が切れた時に離脱症状が現れ、強い不安や不眠、頭痛や幻覚、薬への強い欲張りが先で他人の部屋に

だ」と梅野氏。睡眠薬による問題行動などで入院する患者が、最近、目立ってきた」と話す。

同調査は、睡眠薬症例の約八割が医師の処方

治療が入り口になることが多いが、繁華街やネット上で買い遊んで飲み始める人も。前出の男性のように、治療と遊びを混同した感覚の人もい

# 繰り返す奇妙な行動

の睡眠薬は眠気を促すために就寝前に飲む。だが男性は、昼夜を問わず飲んでいて、「朝起きて飲む」と肩の荷が下り、一日を始められた。職場でも不安になるとすぐ、ラムネ菓子でもかじるように



**向精神薬**

中枢神経に作用し、精神の機能(心の働き)に影響する

薬の総称。睡眠薬のほか▽不安を取り除く抗不安薬▽うつ状態を改善する抗うつ薬などがあり、日本で処方される睡眠薬や抗不安薬のほとんどは「ベンゾジアゼピン系」と呼ばれ依存性が指摘される。

# 服薬量増え

## 繰り返す奇妙な行動

暮らすより幸せに思え  
た」

### 生活破たん

だが、薬漬けの日々は生活を破たんさせた。意識がない間に歩いて「迷子」になり、通り掛りの人に暴力を振るい。自宅マンションの駐車場で他人のバイクが置かれていたのに腹を立て、火を放ったことも。奇妙な行動を繰り返して何度も警察に通報され、精神科に入院した。男性

は今は治療を受けつつ、回復を目指している。

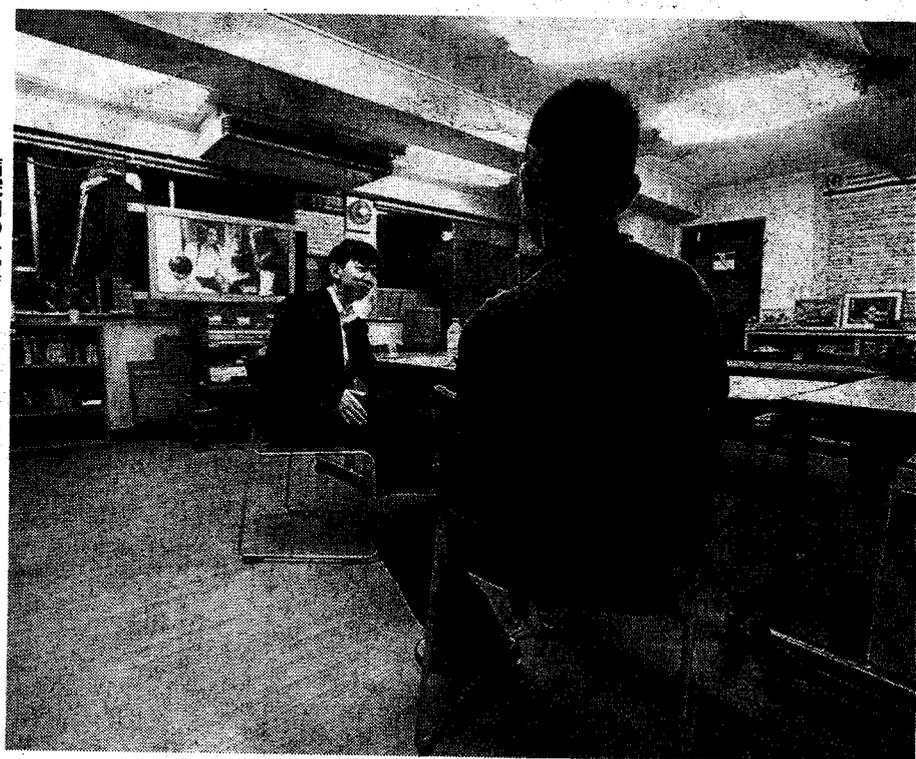
「日本で睡眠薬や抗不安薬の多くに使われているベンゾジアゼピン系薬

は効果が多様で副作用が少なく、適切な処方で飲む分には、とてもいい薬」と国立精神・神経センター薬物依存研究部の和田清部長は説明する。しかし、依存性があるので、指示された服用量を守らなかつたり、長期に服用したりすると、求などに苦しむ。このため服薬をやめられず、依存症が深刻になって服薬したケースがある」と話すのは、東京都立松沢病院の梅野充医師。「家族を殴って記憶がないなど、認知症と区別が付かない高齢者の例もある」という。

### 20万錠不明

ニーズを裏付けるように今年十月、大阪府大東市の診療所で、ベンゾジアゼピン系の睡眠薬「エリミン」約二十万錠が行方不明になる事件が発覚。捜査中の近畿厚生局麻薬取締部の担当者「覚せい剤で高ぶった精神を落ち着けるのにも使われる。闇の流通ルートがあるのでは」と語る。





病院内の一室でくつろぐ男性(右)はサラリーマンの時に睡眠薬を手放せなかったという。東京都内で

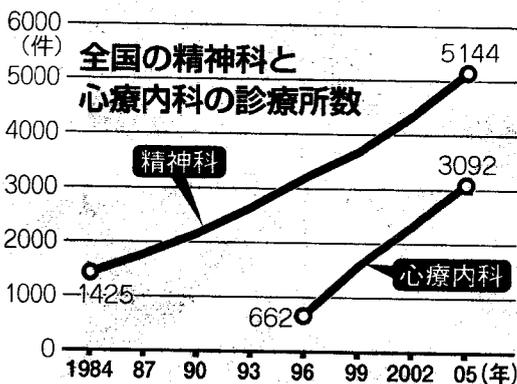
# ストレス社会が要因

睡眠薬などの依存症が広がるのは、倍以上の九十二万人に。日本ではうつ病患者に抗うつ剤だけでなく、睡眠薬や抗不安薬を処方することが多

なせか。「大きいえば、ストレスは、赤城高原ホスピタル(群馬県渋川市)の竹村道夫院長だ。気分障害(うつ病、そうつ病など)の患者は増加の一途で、一九九九年には四十四万人だったが、二〇〇五年には

また、多くの精神科医が指摘する

分で麻薬のように使われたため、法改正で今春から、うつ病患者には処方できなくなった。睡眠薬などの依存症について、梅野氏は「大麻や覚せい剤などの違法薬物ではないため服用は止めず、医師が患者の役に立ちたい思いで処方し続ける場合もあり、回復には困難が伴う」といい、「うつ病などの患者にカウンセリングを導入した丁寧な診療が求められている」と指摘



## 安易な処方傾向も

のは「パブルともいえる診療所の増

加」だ。精神科の診療所は右肩上がりに増えており、ある精神科医は「お客さん」である患者を獲得するために、安易に処方する医師もいると明かす。内科など他の診療科でも処方されがちだという。

昨年、話題になった向精神薬の一種で精神刺激薬のリタリンは同系薬ではなかったが、覚せい剤に似た成分で麻薬のように使われたため、法改正で今春から、うつ病患者には処方できなくなった。睡眠薬などの依存症について、梅野氏は「大麻や覚せい剤などの違法薬物ではないため服用は止めず、医師が患者の役に立ちたい思いで処方し続ける場合もあり、回復には困難が伴う」といい、「うつ病などの患者にカウンセリングを導入した丁寧な診療が求められている」と指摘